

## 令和2年度 学校経営計画及び学校評価

### 1 めざす学校像

校訓である「自主自律」「和親協力」を背景に、変化の激しい時代に対応できる人を育て、生徒・教員がともにチャレンジする学校をめざす。

- 1、基礎学力の定着を背景に広い教養を身につけ、健全な議論や思考等ができる基礎的・汎用的能力の育成をめざす。
- 2、急速に進むグローバル化に対応する英語教育を根幹とし、時代に沿った国際教育を研究・開発・展開する。
- 3、自由な校風と校訓「自主自律」「和親協力」を背景に、学習と部活・行事の両立をはかる。

### 2 中期的目標

#### 1、学力の向上

- (1) 学習習慣の定着を図る。
  - ア 学校での学びと家庭学習を効果的に結びつけ、高校生として必要な基礎学力の定着をはかる。
  - イ 総合的な探究の時間を中心として学習活動全般で、社会人として通用する基礎的・汎用的能力の土台作りを行う。

※効果検証 学力生活実態調査の結果：【実績】 **高一 1学期** A3以上297名(R1)、294名(H30)、294名(H29)  
**高三 1学期** A3以上54名(R1) 63名(H30) 65名(H29)

【目標】R4年度まで…入学時A3以上が300名以上→高3のスタート段階が80名以上、これらを継続する。
- (2) 教員育成のための研修・勉強会を実施し、統計資料を担保とした効果検証とフィードバックを行い、次年度へつなげていく。
  - ア 上記(1)を実現するために、検討された内容を教科横断的な研修・勉強会を通じて、検討・定着を進める。
  - イ 検討された上記(1)について生徒アンケートや模擬試験などの結果から効果検証とフィードバックを行い、授業実践に活かす。

※効果検証 授業満足度(3項目平均)について、保護者アンケートにおける肯定的評価を令和元年度71.9%→令和4年度80%以上。
- (3) 上記を実現するために必要な学校組織の業務運営の整備を進める。
  - ア 上記(1)(2)を達成するために、スクラップアンドビルドを認識し、必要な業務内容を精選する。
  - イ 新グローバル科移行に伴い、新カリキュラムへの移行を前倒し実施するとともに、教員が生徒と関わる時間を確保し教育効果を高める。

#### 2、グローバル時代に対応する教育実践の導入と展開

- (1) 4技能を英語授業に毎時間組み込んだ授業展開とさらなる英語教育の充実をはかる。
  - ア 「骨太の英語力養成事業」の成果を踏まえ、4技能、特にoutput重視の英語教育を深化させる。
  - イ CEFRを外部評価基準とし、英語学力調査をグローバル科及び普通科全体で継続し学力を伸長させる。(以下の効果検証指標を用いる)

4技能(listening、writing、reading、speaking)統合データ (H29以前は国際科のみ受験、H30より全員受験)

	H30				H31 (R1)				R2				R3				R4			
	1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年				
B1以上	6	19	10	42	40	50	45	55	50	60										
A2	239	255	310	271	270	275	275	280	280	285										

speakingデータ

	H30				H31 (R1)				R2				R3				R4			
	1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年				
B1以上	8	8	11	39	20	50	25	60	25	60										
A2	225	261	284	260	280	270	285	275	290	280										

- ウ 海外留学生の受け入れ態勢を準備・計画し、海外研修、海外大学説明会などで英語教育や国際化教育の機会を充実させる。
  - エ 外部との連携を図り、生徒とともに教職員も学び続ける。
- (2) ロジカル・クリティカルシンキング思考を学び、そのスキルを習得できるよう「総合的な探究の時間」を中心に実践を広げる。
    - ア 日本語のディベートやプレゼンテーションなどをとり入れ、ロジカル・クリティカルシンキングを深めさせ、通常授業へ順次導入していく。
    - イ 海外研修や修学旅行についても、事前事後学習も含む全過程を通じてロジカル・クリティカルシンキングを使いながら成果発表へとつなげる。

#### 3、安全・安心な学びの場の中で、学習・行事・部活動の一層の活性化をはかる

- (1) 教育相談、保健教育、人権教育の機能を一層促進し、安全で安心な学びの場を形成する。
  - ア 教員とSCの協力のもと、全教職員で教育相談を充実させ、生徒が相談しやすい環境づくりを促進する。
  - イ いじめを根絶すべき重要課題を認識し、未然防止、早期発見、組織的対応に取り組む。
  - ウ 災害や事故に備えてマニュアル整備や情報提供システムを整備し、実行性のある危機管理体制を確立する。

※効果検証 ア自己診断「教育相談」(生徒)の肯定率R1:64.5%→R4:72%以上 (H29:57.7% H30:58.1% R1:64.5%)  
イ自己診断「いじめ対応」(生徒)の肯定率R1:82.6%→R4:90%以上。(H29:75.1% H30:77.0% R1:82.6%)  
ウ自己診断「災害時の情報提供」(生徒)の肯定率R1:57.4%→R4:65%以上 (H29:51.1% H30:50.4% R1:57.4%)
- (2) 生徒の進路実現のために保護者・教員が一体となった支援体制を確立する。
  - ア 国公立大学への進学実績を伸ばす。
  - イ 海外大学進学説明会をより充実させ、国内外の関係機関との連携を深めて海外大学への進学をめざすシステムを確立する。

※効果検証 ア:令和元年度58名を令和4年度80名以上。  
イ:他校と合同の海外大学説明会の実施及び海外大学進学希望者に対する合格者の合格率R1 50%→R4 70%以上。(H29 50% H30 63% R1 50%)
- (3) 生徒主体の部活動・行事の運営と学習との両立を進める。
  - ア 基礎的な生活習慣の定着を進める。
  - イ 生徒会を中心とした、自主的な活動を推進する。
  - ウ 「大阪府部活動の在り方に関する方針」に沿い、生徒の自主活動や部活動と教職員の働き方とのより良いバランスを実現する。

※効果検証 ア:年間遅刻者数を令和元年度延べ5374名を令和4年度には延べ3300名まで減らす。  
イ:自己診断「生徒会を中心とした自主的な活動が活発である」(生徒)肯定的回答R1:80.6%→R4:88%以上 (H29:72.2% H30:79.2% R1:80.6%)
- (4) 地域との連携を意識し様々な機会を通じて情報発信と協働を行う。
  - ア 生徒会や部活動を中心に地域のイベント、清掃活動、ボランティア活動等に参加し、地域への協力を進める。
  - イ HP等の電子媒体、リーフレット等の紙媒体及び学校説明会等広報活動で情報発信についてさらなる充実を努め、本校への理解の向上をはかる。

※効果検証 イ:HP更新回数の令和2年以後は100回以上の継続及び自己診断「教育情報の提供」(保護者)肯定率R1:83.1%→R4:90%以上 (H29:85.4% H30:70.3%)

### 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価																									
1 学力の向上	<p>(1) 学習習慣の定着</p> <p>(2) 教員研修・勉強会による教育力の向上</p> <p>(3) 学校組織の整備</p>	<p>(1) 授業と自学・自習をバランス良く実施し、基礎学力の定着をはかる。</p> <p>(2) 上記(1)を遂行するために、 ・新採者育成を含めた若手教員中心の勉強会を首席が中心となり年5回以上実施する。 ・授業アンケート(7、12月)の課題把握と成果検証と教職員へのフィードバックを実施し、授業改善に結びつける。</p> <p>(3) 新カリキュラムへの移行に伴い、学力がより一層向上するよう、学校組織における分掌・委員会の活性化をはかるとともに、中長期の視点に立った組織運営と人材配置を進める。</p>	<p>(1) 授業アンケートの「授業に対する生徒の取組み1」(必要な予習や復習) R1:2.8→3.0以上。また、授業アンケート8(授業への興味・関心を持つ)、9(知識・技能が身につく)平均で R1:3.0→3.1以上。</p> <p>(2) 以下の内容の完成と遂行をめざす。 ・新カリキュラム及び授業プロセス等の課題を中心に勉強会を年5回以上実施。 ・自己診断「教員校内研修が役立つ」肯定感 R1:77.4→80%以上。 ・自己診断の学習指導の保護者アンケート(3項目平均)における「肯定感」 R1:71.9→75%以上。 ・12月の授業アンケート学校平均(生徒意識1・2) R1:3.0→3.1以上。</p> <p>(3) 本校の学校教育自己診断における全般に関する質問で肯定感 R1:87.4→90%以上。(生徒)</p> <p>・自己診断「教職員の学校組織に関する項目」の肯定感 R1:81.3→84%以上。</p>																										
展開 2 グローバル時代に対応する教育実践の導入と	<p>(1) 4技能を英語授業に毎時間組み込んだ授業展開とさらなる英語教育の充実</p> <p>(2) ロジカル・クリティカルシンキングの理解と実践</p>	<p>(1) ア 広がる英語教育推進プロジェクトと教科内相互授業見学による研さんより4技能教授スキルと授業プロセス改善に取り組む。 イ 国際グループを中心に、統合的な英語評価(CEFR)を行い、その現状分析と課題の把握を継続し、今後の方向性と課題解決策の策定作業を英語科とともに取り組む。</p> <p>ウ 国内外英語教育機会への参加とその紹介に努め、参加に努める エ 海外大学による模擬授業や外部機関による研修への参加の促進</p> <p>(2) ア 総合的な探究の時間の2年生全クラスでの円滑な実施。 イ 海外研修や修学旅行目的・実施について学校経営計画との整合性を高める。</p>	<p>(1) ア、イ。1、2年外部評価試験全員受験。</p> <p>4技能統合データ</p> <table border="1" data-bbox="1024 1032 1365 1142"> <tr> <td>B1以上</td> <td>1年</td> <td>10名</td> <td>2年</td> <td>42名</td> </tr> <tr> <td>A2</td> <td>1年</td> <td>310名</td> <td>2年</td> <td>271名</td> </tr> <tr> <td>A1</td> <td>1年</td> <td>15名</td> <td>2年</td> <td>10名</td> </tr> </table> <p>Speaking データ</p> <table border="1" data-bbox="1024 1181 1390 1276"> <tr> <td>Grade6~7</td> <td>1年</td> <td>11名</td> <td>2年</td> <td>39名</td> </tr> <tr> <td>Grade4~5</td> <td>1年</td> <td>284名</td> <td>2年</td> <td>260名</td> </tr> </table> <p>ウ 海外研修80名以上参加の継続。海外研修の更なる内容検討と整備。事後アンケート満足度95%以上の継続。 エ 校内での海外大学模擬授業研修・説明会を5回以上実施し、うち1回以上は府立学校に公開実施とする。</p> <p>(2) ア、イ 2年総合的な探究の公開発表会を年2回以上実施する。また、海外研修については事前研修を充実させ、実施後の成果発表を文化祭で行い、学校全体や社会に開かれた活動とする。</p>	B1以上	1年	10名	2年	42名	A2	1年	310名	2年	271名	A1	1年	15名	2年	10名	Grade6~7	1年	11名	2年	39名	Grade4~5	1年	284名	2年	260名	
B1以上	1年	10名	2年	42名																									
A2	1年	310名	2年	271名																									
A1	1年	15名	2年	10名																									
Grade6~7	1年	11名	2年	39名																									
Grade4~5	1年	284名	2年	260名																									
3 安全・安心な学びの場の中での学習・行事・部活動の一層の活性化	<p>(1) 安全で安心な学びの場を形成</p> <p>(2) 進路実現のために保護者・教員が一体となった支援体制の確立</p> <p>(3) 生徒主体の部活動・行事の運営と学習との両立</p> <p>(4) 地域への情報発信と地域との連携・協働</p>	<p>(1) ア 教員とSCの協力のもと、全教職員で教育相談を充実させ、生徒が相談しやすい環境づくりを促進する。 イ いじめを根絶すべき重要課題を認識し、未然防止、早期発見、早期発見に組織的に取り組む。 ウ 災害や事故に備えてマニュアル整備や情報提供システムを整備し、実行性のある危機管理体制を確立する。</p> <p>(2) 学年・教科での認識の差をできるだけ少なくするために、進路指導部を中心に定期的な研修や振り返りを実施する。</p> <p>(3) ア 生徒会を中心とし、生徒主体の部活動・行事運営に関して、より発展的でシステム化されたものを検討する。 イ、ウ 「大阪府部活動の在り方に関する方針」に沿い、学習と部活のバランス及び教員の働き方と生徒の活動のバランスをとりながら成果をあげる。</p> <p>(4) ア 生徒会部・保健グループの支援のもと、生徒が中心となって地域との連携活動(清掃活動、ボランティア活動等)を実施し、地域への発信も行う。 イ ホームページによる組織的な情報発信及び地域や教育産業等を通じた学校説明会を実施するなど、情報発信を丁寧かつ継続的に行う。 ウ 保護者が学校の授業や行事に参加し、生徒・保護者・学校が一体となった学びの場を形成する。</p>	<p>(1) ア 学校独自のSC相談を5回以上確保し、自己診断「教育相談」(生徒)の肯定率 R1:64.5→67%以上。 イ 自己診断「いじめ対応」(生徒)の肯定率 R1:82.6%→85%以上。 ウ 自己診断「災害時の情報提供」(生徒)の肯定率 R1:57.4%→60%以上。</p> <p>(2) ア 模擬テスト、英語外部テスト結果等の研修会の実施とその成果を進路指導に反映する。研修会の5回以上実施を継続し、 ・国公立大学合格者 R1:58名→65名。 ・海外大学への進学合格率 R1:50%→60%以上。 ・海外大学進学希望者に対する説明会の年間5回以上の継続、うち1回は府立学校への公開実施。(R1:6回実施、うち1回公開実施)</p> <p>(3) 以下の内容の完成と遂行をめざす。 ア 教員と生徒会の協力による生活規律の改善。遅刻者数 R1:5374名→4500名以下。 イ、ウ 生徒会・行事における生徒の自主性を育み、教員のファシリテーション力を強化する。そのため、若手教員研修にファシリテーションやコーチング活動を組み込む。自己診断「生徒会を中心とした自主的な活動が活発である」 R1:80.6%→83%以上。</p> <p>(4) 以下の内容の完成と遂行をめざす。 ア 生徒会や各クラブが清掃活動等を含め、ボランティア活動等の年間50回以上(H30 50回程度)を継続実施し、その成果をHP等で発信する。 イ HP更新回数100回以上の継続。自己診断「教育情報の提供」(保護者)肯定率 R1:83.1%→86%以上。地域や教育産業を通じた学校説明会の15回以上実施を継続する。 ウ 土曜日等に活用し、授業参観日を設けるとともに保護者対象の学校方針や進路等の説明会を年3回以上実施する。</p>																										